

2000年12月25日

県民意識調査
送る 2000年迎える 2001年
報告書

(2000年12月18日～19日調査)

調査の設計	1
結果の概要	3
単純集計	4



社団法人 長野県世論調査協会

Tel 026-233-3616 Fax 026-233-3610
<http://www.nagano-yoron.or.jp>

I 調査の設計

◆ 調査の設計

「21世紀」を冠にしたかけ声がにぎやかさを増す。しかしながら、その色調はバラ色の夢にいざなう明るさはいまひとつ、むしろ20世紀に背負った重荷を引き継ぐ灰色に近い。

戦争と平和、温暖化の地球規模の問題から、高齢者介護や中心市街地活性化の身近な課題まで、人々はことさらに「あすはどのようなのだろう」という問いをぶつけ合う。

時代の方向と自分の足元をあらためて確認するのに、100年、50年先の展望は茫漠すぎ、1年、2年の刻みは拙速にすぎる。世紀の狭間に立った県民が、過去と未来の流れをどのように受けとめているか、とりあえず「10年間」の時間差を軸にして、各層の期待と反応を探った。

調査対象 長野県内に住む20歳以上の男女800人

抽出方法 県内を東北中南の4地区に分け、さらに20～60代以上の5つの年代層・性に分割し、有権者数による比例配分で、各市・各郡の対象者数を設定した。

調査方法 電話帳割り当て法。設定した対象者の構成を基に、NTT電話帳から一定のルールにより、無作為抽出した世帯から1人を選び出し、設定した年代・性の全体構成に到達するまでコールする。

調査期間 2000年12月18日～19日

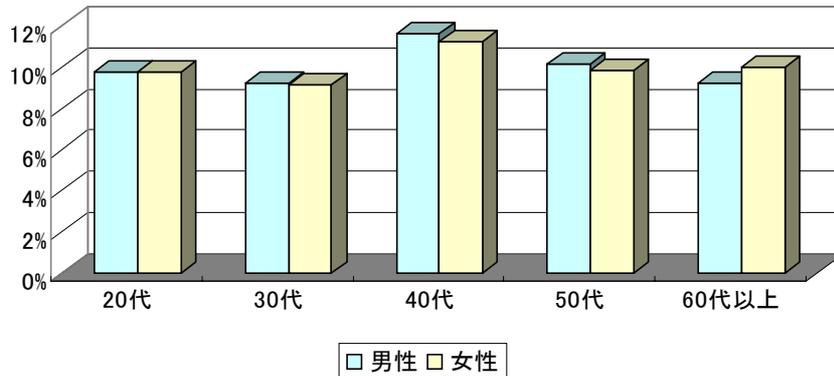
調査地点 17市18町10村の計45市町村

◆ 回収結果 各市・各郡とも年代・性の人数に達するまで抽出を繰り返したので、有効回収数(率)は、対象者数と同じ800人(100%)。

◆ サンプルの内訳

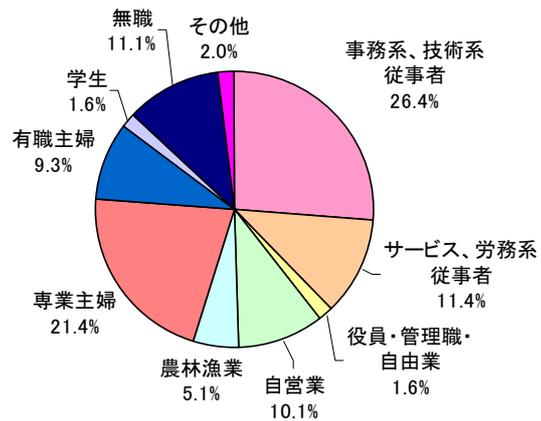
【性別と年代】

	全体	20代	30代	40代	50代	60代以上
男性	400 50.0%	78 9.8%	74 9.3%	93 11.6%	81 10.1%	74 9.3%
女性	400 50.0%	78 9.8%	73 9.1%	90 11.3%	79 9.9%	80 10.0%



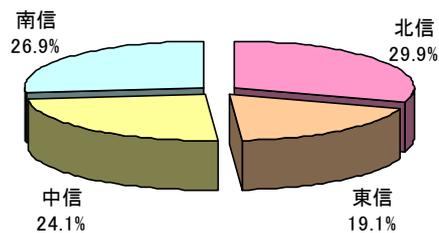
【職業】

事務系、技術系従事者	26.4%
サービス、労務系従事者	11.4%
役員・管理職・自由業	1.6%
自営業	10.1%
農林漁業	5.1%
専業主婦	21.4%
有職主婦	9.3%
学生	1.6%
無職	11.1%
その他	2.0%



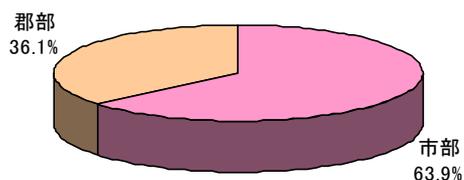
【地域】

北信	29.9%
東信	19.1%
中信	24.1%
南信	26.9%



【市郡別】

市部	63.9%
郡部	36.1%



II 結果の概要

日本の進む方向

長期にわたる景気の低迷から、ようやく脱出へ踏み出した 2000 年の節目で、日本が一般的に「好ましい方向」に向かったとみる県民は 4 分の 1 程度にとどまり、悲観的な評価が 6 割を超えた。バブル経済期以降の“失われた 10 年”の重圧感から、容易に抜け出せない実情が示された。

今後 10 年間の日本の進む方向については「好ましい」が増えて「好ましくない」を僅かに上回った。長野県の方角には「好ましい」が 7 割半ばに達し、全国最年少の新知事誕生の期待感が反映されているようだ。

“この 10 年間の日本”の受けとめ

政治・政治家への信頼について、8 割半ばが「低まった」と手厳しい判断を下した。対照的に、女性の地位向上には 9 割近くが「前進した」と積極的な反応。その一方で、グローバル・スタンダードへの即応がますます問われるなかで、国際競争力は「弱まった」とみる人が半数を突破した。

“この 10 年間の長野県”の受けとめ

田中康夫知事を押し出した今秋の知事選での論議を引き継いで、30 人学級や高校通学区制など“教育県再生”への取り組みが強調されている。しかし、県下の学校のいじめ・不登校の実情は、全国的な水準に比べて「改善されている」という評価が 2 割にも届かない。また、有数の長寿県を維持する長野県だが、高齢者の介護に「満足できる」は、辛うじて 2 割をクリア。不満感はその 3 倍にも達する。IT 革命への対応で迫られる情報・通信の基盤づくりでは、ほぼ半数が「遅れている」と否定的で「進んでいる」を上回った。

内外の懸案 - 今後 10 年間の見通し

少子化・高齢化の影響など設問に掲げた 4 つの項目は、いずれも時代の構造的な問題が絡み、悲観的な予測が圧倒的。とりわけ、地球温暖化の進行と雇用事情の安定化では「期待できない」が 8 割近くにのぼり、出口の明るみがみえない実情がストレートに反映された。中心市街地の活性化と少子化・高齢化の影響でも、期待は 2 割台に低迷している。

今後の好ましい生き方

「仕事と生きがいは別」という人が 6 割を超える一方で「IT 革命への関わりは最小限に」と、個人的には時代の流れに少し距離を置こうという人が半数を超えた。

Ⅲ 単純集計

◆2000年は「好ましい方向へ向かった」2割半ば

問1 日本の進む方向について		
好ましい方向	207	25.9%
好ましくない方向	516	64.5%
なんともいえない	77	9.6%

◆政治・政治家への信頼－「高まった」1割に届かず

問2-A 10年間の各分野の動向 政治・政治家への信頼		
高まった	75	9.4%
低まった	682	85.3%
なんともいえない	43	5.4%

◆国際競争力－「弱まった」半数を超える

問2-B 10年間の各分野の動向 国際競争力		
強まった	254	31.8%
弱まった	436	54.5%
なんともいえない	110	13.8%

◆女性の地位向上－「前進した」圧倒的な評価

問2-C 10年間の各分野の動向 女性の地位向上		
前進した	708	88.5%
後退した	43	5.4%
なんともいえない	49	6.1%

◆学校のいじめ・不登校－「悪化している」6割半ば

問3-A 10年間の長野県各分野の動向 学校のいじめ・不登校		
改善されている	148	18.5%
悪化している	516	64.5%
なんともいえない	136	17.0%

◆情報・通信の基盤づくり－「進んでいる」4割ぎりぎり

問3-B 10年間の長野県各分野の動向 情報・通信の基盤づくり		
進んでいる	322	40.3%
遅れている	392	49.0%
なんともいえない	86	10.8%

◆高齢者の介護―「満足できない」6割半ばを突破

問3-C 10年間の長野県各分野の動向 高齢者の介護		
満足できる	183	22.9%
満足できない	529	66.1%
なんともいえない	88	11.0%

◆「好ましい方向」「好ましくない方向」相半ば

問4-A 今後10年間の日本の進む方向		
好ましい方向	362	45.3%
好ましくない方向	358	44.8%
なんともいえない	80	10.0%

◆「好ましい方向へ向かう」7割半ばの勢い

問4-B 今後10年間の長野県の進む方向		
好ましい方向	612	76.5%
好ましくない方向	117	14.6%
なんともいえない	71	8.9%

◆少子・高齢化の影響―「悲観」が「楽観」の3倍にも

問5-A 今後10年間の懸案の見通し 少子化・高齢化の影響		
楽観している	189	23.6%
悲観している	551	68.9%
なんともいえない	60	7.5%

◆雇用事情の安定化―「期待できる」2割に満たず

問5-B 今後10年間の懸案の見通し 雇用事情の安定化		
期待できる	133	16.6%
期待できない	625	78.1%
なんともいえない	42	5.3%

◆地球温暖化の進行―「さらに深刻に」8割に迫る

問5-C 今後10年間の懸案の見通し 地球温暖化の進行		
歯止めがかかる	137	17.1%
さらに深刻になる	629	78.6%
なんともいえない	34	4.3%

◆中心市街地の活性化―「期待できない」2割台に低迷

問5-D 今後10年間の懸案の見通し 中心市街地の活性化		
期待できる	186	23.3%
期待できない	569	71.1%
なんともいえない	45	5.6%

◆仕事と生きがいは別－肯定が6割超す

問6-A 今後の生き方 働くのは生活のため、生きがいは別		
そう思う	503	62.9%
そうは思わない	267	33.4%
なんともいえない	30	3.8%

◆IT 革命への関わり－5割半ばが「個人的には最小限に」

問6-B 今後の生き方 IT革命への個人的かかわりは最小限に		
そう思う	449	56.1%
そうは思わない	307	38.4%
なんともいえない	44	5.5%